

名古屋文化短期大学 教学マネジメント指針

名古屋文化短期大学は、建学の精神に基づき、学生自身が目標を明確に意識しつつ主体的に学修に取り組み、その成果を自ら適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していく自律的な学修者となるため、以下のとおり、教学マネジメント指針を定めます。3つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき体系的かつ組織的な大学教育を展開し、その成果の適切な点検・評価を行い、その上で適切にPDCAサイクルを確立し、その教育改善の取り組みを社会に対し適切に示します。

1. 「3つの方針」を通じた学修目標の具体化について

教育の質保証に向けた個々の取組の基礎となる学位プログラムの「卒業認定・学位授与の方針」は、学生の学修目標の根源として、また、卒業生の資質・能力を保証するものとして機能すべく、具体的かつ明確に定めます。

2. 教育課程の編成・実施について

学修目標の具体化に当たっては、明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるように、体系的かつ組織的に教育課程を編成します。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化について

アセスメント・ポリシーに基づき、学生が学位プログラムを通じて得た自らの学びの成果（学修成果）や、大学が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を備えた学生の育成（教育成果）に関する情報を、信頼性のある成績評価の基、多元的に把握・可視化し、教育活動の改善等へ適切に活用します。

4. 教学マネジメントを支える基盤について

学修成果・教育成果の改善を図るため、FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）を通じた教職員の能力の向上を目指し組織的に活動を実施します。また情報収集の基盤となる教学IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動を促進させます。

5. 教学マネジメントの推進体制について

- (1) 学長のリーダーシップの下、教務委員会は教学マネジメント組織の中核として、FD委員会及び学生委員会と連携し、学位プログラムの教育の質保証を支援する教育活動全般についての各種方針等の策定を行います。

(2) 教務委員会等が行う教育内容の改革・改善は、教授会や理事会・評議会等における検討を経て、全学的な実施を図ります。

6. 情報公表について

学生や入学希望者に加え幅広く社会に対して、本学の教育成果や学生の学修成果に関する情報を自発的、積極的に公表することにより、地域社会や産業界からの信頼や支援を得る好循環の形成を目指します。